



※「関連資料」はインターネット掲載ページにリンクしています。

■ 2018年1月1日から全数把握対象疾患（すべての患者について届出る疾患）となりました

百日咳は、2017年12月31日まで感染症法上の5類感染症の定点把握対象疾患であり、全国約3,000か所の小児科定点医療機関から年齢群・性別の患者数が毎週報告されていました。しかし、このサーベイランスでは、成人の百日咳患者の発生动向や感染源・予防接種歴などを含む正確な疫学情報を得ることができなかったことから、2018年1月1日から全数把握対象疾患となりました。これに伴い届出基準も変更され、臨床診断による届出から、原則として検査診断による届出となりました。

また、サーベイランスの充実を図るため、百日咳の届出の手順などを示した「百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（初版）」（以下、届出ガイドライン）が国立感染症研究所により作成され、公開されています。

関連資料

- ▶ 百日咳 [届出基準・届出様式](#)（岐阜県健康福祉部保健医療課 HP）
- ▶ 百日咳 [感染症法に基づく医師届出ガイドライン（初版）](#)（国立感染症研究所 HP）

■ 全国の届出状況

国立感染症研究所が、2018年第1週～第16週（1月1日～4月22日）の全国の届出データに基づく疫学情報をとりまとめ、公開しています。

関連資料

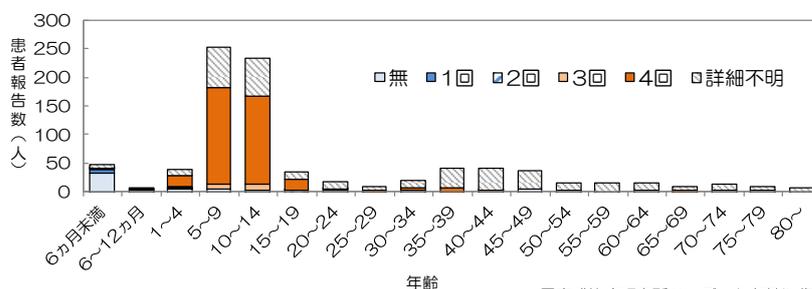
- ▶ [国立感染症研究所「2018年第1週から第16週に報告された百日咳感染症のまとめ（2018年第16週週報データ集計時点）」](#)（国立感染症研究所 HP）
- ▶ [国立感染症研究所感染症疫学センター・同細菌第二部「新しい百日咳サーベイランスによる国内の百日咳の疫学（2018年疫学週第1週～16週）」](#)（国立感染症研究所 HP）

<要約>

※詳しくは、元データをご覧ください。

- ・期間中に全国で報告された百日咳症例は1,023例で、そのうち届出基準および届出ガイドラインに合致するものは842例でした（以下は842例の解析結果）。
- ・患者の年齢分布は、6か月未満児（6%）、9歳をピークとした5～15歳未満までの学童期の小児（58%）、さらに30～50代の成人（19%）の年齢群に集積がみられました。
- ・5～15歳未満の67%は百日咳含有ワクチンの4回接種が完了していました。
- ・重症化のリスクの高い6か月未満の症例は47例で、感染源の82%が家族（兄弟・姉妹、両親、祖父母）でした。
- ・成人では、単一血清抗体価による診断例の割合が高くなっていました。

年齢群・予防接種歴別患者報告数（n=842）



国立感染症研究所の元データを基に作成

■ 岐阜県の届出状況

県内では、2018年第1週～第28週（1月1日～7月15日）に33例の報告があり、すべて届出基準および届出ガイドラインに合致していました。

患者の年齢分布は全国と同様に、5～15歳未満の学童期、30代の成人に集積がみられています（図1）。また、6ヵ月未満の乳児が3例報告されています。予防接種歴は、成人では不明のものが多いですが、5～15歳未満に限ってみると14例中7例（50%）が4回接種済み、4例（29%）が3回接種済みでした。

また、診断方法は、33例中25例（76%）が単一血清を用いた抗体価測定によるものであり、中でも抗百日咳菌 IgM 抗体の高値によるものが11例と最も多くなっています（図2）。

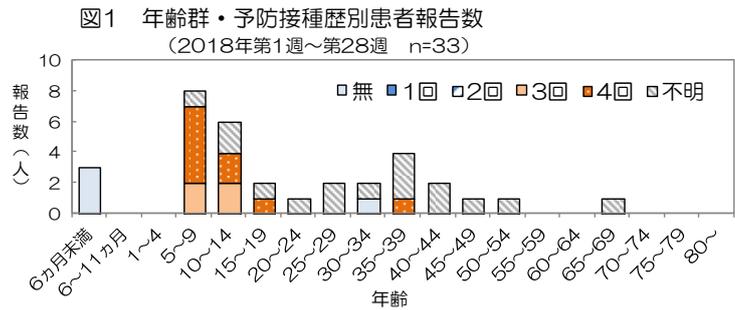
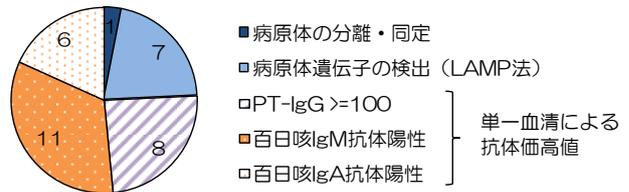


図2 診断方法の内訳



■ 百日咳菌含有ワクチンの追加接種の必要性について検討されています

現在、「厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会」において、百日咳菌含有ワクチンの追加接種を定期接種とすることの必要性について議論がなされています。この議論を進めるうえでは、より正確な疫学情報を把握していくことが必要とされています。

関連資料

- ▶ [ワクチン評価に関する小委員会](#) (厚生労働省 HP)

■ 医師のみなさまへ –届出時のお願い–

● 届出前に「届出基準」をご確認ください

届出基準に合致する症例が届出の対象となります。ただし、これはサーベイランス上の基準であり、臨床現場での患者の治療を目的とした診断や治療開始の基準とは異なる場合があります。

● 届出時は「届出ガイドライン」をご参照ください

サーベイランスの充実を図るため、国立感染症研究所が百日咳の届出の手順などを示したガイドラインです。届出票の項目について、本ガイドラインを参考に記載をお願いします。

※本ガイドラインでは、届出基準の診断方法のうち「単一血清で抗体価高値」の考え方について、次のとおり示されていますので、参考としてください。

- 抗 PT-IgG 抗体の場合：100 EU/mL 以上
- 抗百日咳菌 IgM・IgA 抗体の場合：陽性判定

ただし、抗百日咳菌 IgM・IgA 抗体は新しく開発された検査方法で、世界的にもまだエビデンスが少なく、現在検査基準について検討中であり、今後新たな見解が示される可能性もあります。

● 把握し得る情報はできる限りご報告ください

症状、診断方法のほか、発病年月日、感染原因、感染地域、予防接種歴なども重要な情報となりますので、できる限り記載をお願いします。予防接種歴など、届出後に確認して判明した場合にも保健所に報告をお願いします。